

## 令和8年度 第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和8年8月21日（金）午後3時～午後4時30分

場所：北秋田市役所 本庁3階 大会議室

### 【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、加藤雄大、木村加奈子、金野昌完、佐々木寛幸、佐藤真弓、高橋昌明、張了了、中嶋俊彦、益田光、三浦栄一 **〔座長〕**、山田浩二（五十音順、敬称略）

### 【欠席委員】

近藤大介、長崎しのぶ（五十音順、敬称略）

### 【部長等（説明員）】

三沢総務部長、西根財務部長、佐藤市民生活部長、鈴木健康福祉部長、小松産業部長、益子観光文化スポーツ部長、日下部建設部長、小林学校教育課長、松橋雅徳消防長

### 【事務局】

堀内政策係長、菅原主査、桜庭主査

## 開会

### 【会議の概要】

1. 座長あいさつ
2. 協議事項

#### （1）事務局説明（菅原主査）

- 会議資料の確認及び会議の進め方について、事務局より次のとおり説明した。
  - ・ 事前配布資料及び当日配布資料の確認を行った。
  - ・ 【資料3】「効果検証シート【個票】の修正箇所一覧表」及び【資料4】「修正箇所を反映した効果検証シート【個票】一式」について、計画期間における達成率の算出方法を再確認し、必要な修正を反映したことを説明した。また、前回実績が未確定であった個票 No. 106「公共施設（市直営施設）における CO2 排出量」についても実績が確定したことから、更新した旨を説明した。
  - ・ 【資料4】が個票の最終版となるため、一式資料として保管するよう依頼した。
- 【資料5】「目標値達成状況シート（令和7年度実績版）」について、事務局より次のとおり説明した。
  - ・ 総合戦略については、第1回会議で示した数値から変更はなく、全69施策のうちAが49施策で、Aの割合は71.0%であった。
  - ・ 総合計画については、個票 No. 106 の実績確定により、進捗・達成率が106.7%、進捗・達成度がAとなった。この結果、総合計画全体におけるAの割合は、第1回会議時の66.7%から68.2%となった。

■【資料 6】「目標値達成状況シート（5ヶ年総括版）」について、次のとおり説明した。

- ・達成率の算定方法について、累計で設定している KPI は、計画最終年度である令和 7 年度の目標値と実績値を基に算定し、単年で設定している KPI は、令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間の目標値の合計に対する実績値の合計の割合を算定している旨を説明した。
- ・総合戦略については、戦略 1、戦略 2 及び戦略 3 は令和 7 年度の達成状況と同様であった。戦略 4 は全 32 施策のうち A が 22 施策で 68.8% となり、総合戦略全体では全 69 施策のうち A が 48 施策で 69.6% となった。
- ・総合計画については、基本理念 1 が全 9 施策のうち A が 7 施策で 77.8%、基本理念 5 が全 20 施策のうち A が 14 施策で 70.0% となった。基本理念 2、基本理念 3 及び基本理念 4 は令和 7 年度の達成状況と同様であり、総合計画全体では全 66 施策のうち A が 47 施策で 71.2% となった。

■会議の進め方について、事務局より次のとおり説明した。

- ・「（2）第 1 回検証会議の意見・提言等に対する回答について」は、【資料 1】に基づき、前回の意見・提言等と各部長からの回答内容を確認することとし、各部署からの追加・補足説明はないため、個別説明を省略する旨を説明した。
- ・「（3）5ヶ年での総括について」は、各施策の成果や課題、第 3 次総合計画への引継事項等を記載した個票を事前配布しているため、各部長からの新たな個別説明は行わず、委員からの確認事項や意見等を中心に協議する旨を説明した。
- ・「（4）地方創生関係交付金事業の検証について」は、観光文化スポーツ部観光課が所管する 1 事業を対象とし、担当部長からの説明、質疑応答の後、本検証会議として事業の評価を行う旨を説明した。
- ・本日の会議で委員から出された意見・提言等については、本検証会議として取りまとめる旨を説明した。

（2）第 1 回検証会議の意見・提言等に対する回答について

- ・【資料 1】「令和 8 年度第 1 回総合戦略検証会議の意見・提言確認事項一覧表」に基づき、第 1 回検証会議における意見・提言等と、それに対する各部長からの回答内容について確認を行った。

《質疑応答》

- ・各部署からの追加・補足説明は行わず、委員からの確認事項や追加質問等について、担当部長等が回答した。

木村委員）「中学校卒業後の状況把握について」

小・中学生については学力状況調査等の分析を行っていると思うが、中学校卒業後、高校生、大学生、社会人となった後の状況について、追跡調査等を行っているか。学校教員の集まりに参加した際、秋田県では高校生以降に活躍度が下がる傾向があるとの話を聞いたことから、高校卒業後も含めた状況を把握しているか確認したい。

学校教育課長) 高校生以降について、教育委員会として追跡調査は行っていない。高校については県立高校となるため、市教育委員会として卒業後まで継続的に追跡しているものではない。一方、中学校と高校との間では、「中高連絡協議会」などを通じて、それぞれの教育方針や進路、現状等について情報共有を行っている。

**木村委員)「開業医等の誘致について」**

全国的に過疎化が進み、総合病院の医療体制の維持が難しくなる中、自治体によっては、開業医を誘致し、かかりつけ医と総合病院との役割分担を進めることで、地域の医療体制を確保している事例もある。本市において、開業医の誘致について検討・実施しているか。また、移住相談会等においても、医師を対象とした誘致や支援制度の周知を行っているか。

健康福祉部長) 市では、開業支援のための補助制度を設けており、補助上限額を今年度から1件当たり1,000万円から3,000万円に増額している。開業医の誘致に取り組むとともに、既存の開業医についても医療機器の更新・整備等を支援している。また、移住施策においても、医師をはじめ医療スタッフや看護師等の誘致に取り組み、移住に関する補助制度と併せて周知している。現時点では医師からの具体的な移住相談や誘致の成果には至っていないが、今後も地域の医療体制確保に向けて取り組んでいく。

**張委員)「森吉山への交通手段の周知について」**

森吉山への交通手段について、十分に周知されていない印象がある。大館能代空港からのアクセスや、昨年度実施した旧阿仁中学校からの直通バスなども、あまり知られていなかったように感じる。SNS等も活用し、森吉山の魅力と現地までの交通手段をセットで、より積極的に周知してはどうか。

観光文化スポーツ部長) 森吉山への二次アクセスについては、「森吉山シャトル」を乗合タクシーとして運行し、阿仁合駅から森吉山阿仁スキー場への移動を中心に、樹氷観賞や登山、スキー等の需要に対応している。また、大館能代空港からのアクセスについても、タクシー事業者の協力を得ながら乗合方式による交通手段を確保している。WEB予約やAIを活用した仕組みも導入している。一方、バスは採算面の課題から撤退しており、森吉山周辺、特に奥阿仁方面への二次アクセスはまだ十分とは言えないと認識していることから、観光振興と併せて二次アクセスの充実に取り組んでいきたい。また、交通手段の周知についても、森吉山の魅力と併せて、利用できる交通手段や予約方法等を分かりやすく発信し、観光客が現地までの移動手段を把握しやすいよう取り組んでいきたい。

**大穂委員)「阿仁スキー場のパーク＆ライドについて」**

関連しての質問となる。昨冬、旧阿仁中学校の駐車場に観光客が自家用車を駐車し、そこから大型バスで阿仁スキー場へ向かうパーク＆ライドを実施していたが、今年も実施する予定はあるか。昨年度は利用者が少なかった印象がある。

観光文化スポーツ部長) 昨年度のパーク＆ライドは、観光庁の補助金を活用したオーバーツーリズム対策として実証的に実施したものである。当初は利用者が少なかったものの、シーズン後半には利

用が増えた。一方、大型バスによる運行を採算ベースで継続することは難しいことから、今シーズンは実施する予定はない。今後は、混雑状況等の情報発信や阿仁スキー場駐車場への整理員の配置などにより、駐車場を効率的に利用できるよう対応していきたい。

### （３）５ヶ年での総括について

- ・第２期北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第２次北秋田市総合計画後期基本計画の５か年の取組について、事前配布した効果検証シートを基に協議を行った。

### 《質疑応答》

- ・各施策の成果や課題、第３次総合計画への引継事項等については、各部長からの新たな個別説明を行わず、委員からの確認事項や意見等について、担当部長等が回答した。

#### 木村委員）「鷹ノ巣駅前整備・活性化について」

鷹ノ巣駅前には、JR 鷹ノ巣駅と秋田内陸線鷹巣駅の双方が立地している一方、観光情報が少なく、土産品の購入や飲食なども難しい状況にある。市の中心部である鷹ノ巣駅前について、観光情報や地域の商品などが集まる場所として、整備・活性化を検討してはどうか。

総務部長）鷹ノ巣駅前が寂しい状況にあることは、市としても認識している。現時点では具体的な内容を申し上げられる段階ではないが、現在、JR 東日本と鷹ノ巣駅や駅周辺について様々な検討を進めている。具体的な内容については、もう少しお待ちいただきたい。

#### 加藤委員）「土産品の販売拠点等の整備について」※意見のみ

北秋田市では土産品を購入できる場所が十分ではないとの意見を家族から聞いた。他地域では駅を降りてすぐに地域の土産品を購入できる場所もあることから、鷹ノ巣駅前にも地域の商品を集めたセレクトショップのような場所があればよい。また、駅前だけでなく、道の駅や空港も含め、訪れた人がまた来たいと思えるような場所づくりについて、具体性を持って、できるだけ早く取り組んでほしい。

#### 佐藤委員）「鷹ノ巣駅のバリアフリー化について」

鷹ノ巣駅にはエレベーターがなく、車椅子利用者にとって反対側のホームへの移動が難しいため、近隣市の駅を利用している方もいる。障がいのある方にも利用しやすい駅として整備することで、日常の利便性向上だけでなく、障がいのある方を対象としたツアーなど、新たな利用にもつながるのではないかと。

総務部長）鷹ノ巣駅へのエレベーター設置については、以前から市として JR に要望しているが、経常的な経費等の課題もあり、現時点では設置に至っていない。JR では、車椅子利用者等に対して人的な支援により対応していると伺っている。今回の意見も踏まえ、改めて JR と話をしていきたい。

#### （４）地方創生関係交付金事業の検証について

- ・【資料２】「地方創生関係交付金事業検証シート」に基づき、観光文化スポーツ部観光課が所管する「奥秋田サスティナブルツーリズムプロジェクト」について、観光文化スポーツ部長より事業内容の説明を行った。
- ・評価方法について、各項目５点満点、総計４５点満点で採点し、３６点以上をＡ、２７点以上３５点以下をＢ、２３点以上２６点以下をＣ、２２点以下をＤとする旨を説明した。

#### 《質疑応答》

##### 大穂委員）「外国人観光客の誘客に向けた取組について」

外国人観光客の誘客に向け、昨年度は具体的にどのような取組を行ったのか。

観光文化スポーツ部長）台湾では、東北観光推進機構が主催する「日本東北遊楽日」への出展や商談会への参加、シンガポールではＪＲが展開するイベントに参画し、秋田犬や食などのＰＲを行った。また、台湾、シンガポール、アメリカから海外インフルエンサーを招聘し、本市を含む地域の情報発信につなげた。データ分析については、秋田県が構築した「秋田県観光ＤＭＰ」の活用に秋田犬ツーリズムが取り組んでおり、今後さらに活用が進むよう働きかけていきたい。

##### 大穂委員）「イスラム圏からの観光客への食事対応について」

マレーシアやインドネシアなどイスラム圏からの観光客も訪れていることから、受入れに当たっては食事への対応も必要ではないか。交付金等も活用しながら、こうした外国人観光客に対応した食事メニューの開発などに取り組んでほしい。

観光文化スポーツ部長）イスラム圏からの観光客への食事対応については、ハードルが高い部分もあり、実際に食事を提供する民間事業者の協力が必要となる。海外でＰＲを行う際には、ベジタリアン対応など食事に関する情報も目につく。阿仁スキー場にも様々な国・地域から多くの外国人観光客が訪れていることから、どのようなところから着手できるのか検討していきたい。

##### 張委員）「海外インフルエンサー招聘後の活用について」

招聘した海外インフルエンサーによる情報発信や、撮影した画像等の素材を、その後の観光ＰＲに活用しているか。

観光文化スポーツ部長）事業の実施に当たっては、秋田犬ツーリズムと連携して取り組んでいる。ＷＥＢ広告についても効果測定を行っており、管内の宿泊施設では、マタギの湯を対象に実験的にＷＥＢ広告を実施した。こうした取組の成果についても、秋田犬ツーリズムからフィードバックを受けながら事業を進めている。

##### 伊藤委員）「教育旅行市場の減少要因について」

教育旅行市場の数値が下がってきているが、令和７年度に減少した要因は何か。

観光文化スポーツ部長）教育旅行については、本市というよりも大館市や小坂町が中心となって取り組んでいる。

大館市では宿泊施設や農家民宿での受入れ、きりたんぼ作りなどの体験、小坂町では近代化産業遺産などを活用した誘致に取り組んでいる。教育旅行は札幌や函館などの需要もあり、北東北3県で競争が激しい。県内でも男鹿市、鹿角市、仙北市などが誘致に力を入れており、大館市は地理的にこれらの地域の上に位置することから、教育旅行の需要を取り込んでいる状況にあると考えている。

#### **伊藤委員)「インバウンド個人・少人数客の受入れについて」**

他自治体では、インバウンドの個人客や少人数のグループ客が宿泊施設へ直接問い合わせるケースがあると聞いている。広域的な周遊だけでなく、こうした個人・少人数の旅行者を地域で受け入れ、取りこぼしを少なくしていくことが重要ではないか。

観光文化スポーツ部長) インバウンドについては、体験を提供する小規模な施設でも受入れが増えてきている。教育旅行については受入れ規模の面で制約があるが、インバウンドの個人客や少人数のグループ客については、徐々に受入れができるようになってきている。

#### **中嶋委員)「4市町村共通 KPI の評価について」**

KPI の実績値は4市町村を合算した数値となっているが、自治体ごとに見ると実績に差があるのではないかと。各自治体の数値を見ることで、それぞれの課題も明らかになると考えられることから、北秋田市単独の実績値についても示すことができないか。4市町村全体の数値だけでは、本市の取組を評価することが難しいのではないかと。

観光文化スポーツ部長) 秋田犬ツーリズムについては、単独の市町村では十分な効果が得られないとの考えから、4市町村が連携して取り組んできた経緯がある。各市町村の実績を掘り下げて分析することの必要性は理解できるが、本事業の検証シートについては、4市町村が連携して実施する事業として、4市町村全体の数値で評価せざるを得ないと考えている。

・質疑応答終了後、委員による採点・集計を行った。

#### **■担当課による自己分析**

**34点(内訳: 妥当性評価12点、有効性評価12点、効率性評価10点)でB評価**

#### **■検証会議での採点結果**

**35点(内訳: 妥当性評価12点、有効性評価12点、効率性評価11点)でB評価**

・採点の結果、本検証会議としての評価は35点でB評価となった。

#### **その他全体**

三浦座長) 全体を通して意見等はないか。

#### **木村委員)「歴史・文化資源を活用した研究・教育分野の誘客について」※意見のみ**

全国的に熊への関心が高まる中、大学ではマタギや熊、山岳信仰などをテーマとした講義や研究も行われている。本市が有するマタギ文化や歴史的背景を生かし、大学のゼミ旅行や研究者等の受入れにつなげてはどうか。また、秋田犬ツーリズムのホームページでは体験や食などが紹介されているが、歴史的背景についても深掘りし、情報発信や研

究者向けのコンテンツづくりに取り組んではどうか。

**木村委員)「旧4町を基礎とした地域活性化」※意見のみ**

社会教育委員として各地区を回る中で、旧4町それぞれの地域としての意識やつながりが今も根強く残っていると感じる。市全体を起点として物事を進めるだけでなく、旧4町それぞれを基礎として取組を進め、そこから市全体の活性化につなげていくという考え方もあってよいのではないかな。

**大穂委員)「地域資源を活用した研究者等の誘致」※意見のみ**

これまでも大学院生や大学教授が阿仁地区を訪れ、研究活動を行っている。くまぐま園をはじめ、森吉山の自然や植物など、本市には研究対象となり得る地域資源が豊富にある。こうした魅力を積極的に発信することで、大学や研究者等のさらなる誘致につながられるのではないかな。

**閉会**

- ・ 本日の会議でいただいた意見・提言等については、事務局で整理したうえで、本検証会議として取りまとめることとした。
- ・ 取りまとめの内容については、座長及び事務局に一任することで了承された。
- ・ 事務局より、本日の意見・提言等を第2期総合戦略及び第2次総合計画後期基本計画の総括検証に反映するとともに、今後の施策の改善及び第3次北秋田市総合計画の推進に生かしていく旨を説明した。
- ・ 委員の任期は令和9年3月31日までであるが、今年度の検証会議は今回が最後となるため、現在の委員による会議も実質的に最後となることを説明し、これまでの評価・検証及び市政の推進への協力に対し謝意を述べた。
- ・ 今年度開催した2回の検証会議の内容及び取りまとめ結果については、後日、委員へ郵送等によりお知らせする旨を説明した。
- ・ 以上をもって、令和8年度第2回北秋田市総合戦略検証会議を閉会した。